

土と器、大堀相馬焼と暮らしの記憶展

3/20(金)・21(土・祝)・22(日) 展示販売会場営業時間 午前10:00～午後6:30

[陶器市 販売インフォメーション]

会場：郡山市「ラボット」内 2Fギャラリー並木

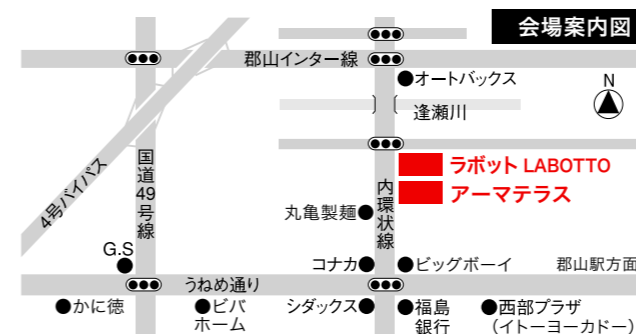
土と器、大堀相馬焼と暮らしの記憶展



- | | |
|---------------------------|---|
| <p>主な窯元・陶芸家</p> | <p>半谷 秀辰 (休閑窯)
 陶 富治 (陶徳窯)
 志賀 喜宏 (あさか野窯・旧岳堂窯)
 近藤 京子 (京月窯)
 山田 慎一 (いかりや商店)
 長橋 明孝 (明月窯)
 山田 正博・山田 茂男 (栖鳳窯)
 松永 和夫 (松永窯)
 スエトシヒロ (白ノ器・大陶窯)
 近藤 学・近藤 賢 (陶吉郎窯)
 ※その他の皆様も予定いたしております。</p> |
| <p>浪江町物産品の展示販売</p> | <p>マツバヤ「親父の小言」シリーズ
 鈴木酒造店 長井蔵「磐城寿」
 四季菓匠 長岡家 小石饅頭
 なみえ焼そば 等</p> |



【会場アクセス】



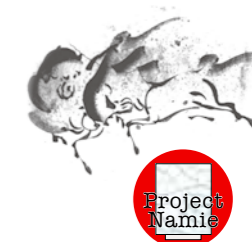
〒963-8026 福島県郡山市並木 2-1-1 TEL.024-995-5855
※郡山駅より車で約10分
 ※駐車場:「ラボット」「アーマテラス」のほか、ラボット裏手にもあります。



会場：LABOTTO ラボット
 1F「しもくの家」・2F「ギャラリー並木」
【営業時間】10:00～18:30
 講演会・懇親会会場：アーマテラス 2F (ラボット隣)

土と器、大堀相馬焼と暮らしの記憶展 by Project NAMIE

二重焼、青ひび、走り駒の大堀相馬焼。その湯飲みは割れてしまい、もう跡形もないが、大堀相馬焼の重厚な姿は、いつの間にか父親の姿と重なって見えてくるようになった。父親の姿はふるさとの姿と重なる。母や祖父母の姿もまたふるさとの記憶のなかにある。記憶のなかのふるさととはうつくしく、そしてかなしみと怒りをたたえている。
 その土地に暮らし続けた記憶を未来へつなぐために、私たちはプロジェクトを進めていきます。



帰れないけれど、ふるさとにはそこにある。

プロジェクト浪江から
ふるさとの記憶を継承するために

「プロジェクト浪江」は、子どもの頃浪江町で遊びあった幼なじみを中心となって結成した団体です。
原発事故によって、浪江の暮らしや日々の営みはふるさとの土地から引きがされてしまいました。大堀相馬焼の器を手にするとき、その向こうに浪江町の風景や暮らしがひろがって見えてくる気がします。そこには、浪江町が伝えていかなければならない「意味」もまた滲んでいるように思えてなりません。
避難生活が続き、新しい土地での生活を始めるなか、浪江町の記憶も薄らいでいきます。私たちは大堀相馬焼をはじめ伝統文化を通して、ふるさとの記憶を継承し、未来に伝えるべきものを伝えたいと考えております。

キーワードは、「記憶をさぐる」「知る」「生きる」「つなぐ」「伝える」こと。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。
代表 鈴木大久（浪江町味噌の「こうじや」）

浪江町「大堀相馬焼」とは



大堀相馬焼は、福島県浪江町の大堀地区（旧大堀村）一円で生産される焼物です。1690年頃に生まれ、創業から300年以上の歴史を誇ります。

相馬中村藩が保護したことによって、江戸時代末期には100を超える民窯を擁し、東北を代表する焼物産地として栄えていました。

野馬追の伝統を有する藩主の家紋から得た走り駒の意匠が広く用いられるようになると、大堀相馬焼は縁起物としても広く愛されるようになり、戊辰戦争、第2次世界大戦などの苦難の時期を乗り越え、昭和53年には国の伝統的工芸品としての指定を受けました。

震災前は25軒の窯元が伝統を守り、生産や陶芸作品の制作を続けてきましたが、田園風景が広がる大堀地区も、現在は原発事故によって帰還困難区域となっています。

窯元たちも全て県内外に避難し、大堀相馬焼協同組合では2012年夏、二本松市の協力を得て共同利用の工房「陶芸の杜おぼり「二本松工房」」を開設し、伝統の火を守ろうとしています。釉薬の原料である地元産の砥山石は使えなくなりましたが、

県ハイテクプラザが代用の釉薬を開発、陶土も他県から購入して生産を続けています。

同組合員で県内に工房を新設した窯元は9軒、非組合員で工房を再開された窯元は2軒で、二本松の共同窯は現在3軒が利用しています。しかし、各地に避難した窯元たちのなかには廃業を決定した方々も多く、伝統文化の継承という視点からも、今後多くの課題を残しています。浪江町民と浪江町が置かれている現状の一端が、大堀相馬焼にも現れています。

大堀相馬焼窯元の避難・再開の現況



※ 敬称略。2015年1月5日作成の現況です。
※ 今回のイベントでご出品いただく皆様を青字で表記しました。
※ 誤記などありましたら、ご指摘頂ければ幸いです。

3/22 (日)

【講演・トークセッション&懇親会】

会場/郡山市「ラボット」隣「アーマテラス」2F (開場:午後2時)



◎浪江町 馬場 有 町長からのメッセージ

午後2時30分より

ばば・たもつ / 1948年浪江町生まれ。東日本大震災とそれともなう福島第一原発事故直後から対策本部を設置し、捜索や避難対応、国や東電との交渉にあたってきた。現在もお続く避難指示の中、「どこに住んでいても浪江町民」を実現すべく、避難生活支援やふるさとの再生のため陣頭指揮にあっている。



◎特別講演 最首 悟

「原発事故を踏まえて 浪江～水俣、いのちをめぐる考察(仮題)」

さいしゅ・さとる / 1936年福島県喜多方生まれ。和光大学名誉教授。元・和光大学人間関係学部長。専門は環境哲学。東大理学部博士課程中退。1967年から東京大学教養学部助手を務め、東大共同助手共闘に参加。不知火海総合学術調査団第2次調査団では団長を務めた。地域作業所カブ運営委員。著書に『生あるものは皆この海に染まり』『星子がいる 言葉なく語りかける重複障害の娘との20年』等。



聞き手 藍原 寛子

あいはら・ひろこ / 福島市生まれ。地元紙記者を経て、現在はフリーランスのジャーナリスト。Japan Perspective News 代表。東日本大震災や原発事故取材する。マイアミ大、フィリピン大客員研究員、日本平和学会3.11プロジェクトメンバー、フルブライトラー。



【トークセッション】 モデレーター/小林めぐみさん

午後3時50分頃より

「暮らしの記憶の残し方」小林 めぐみ

こばやし・めぐみ / 福島県立博物館主任学芸員。専門は美術工芸。『会津・漆の芸術祭』をはじめ、『森のはこ舟アートプロジェクト』などさまざまな取り組みを通して、地域文化の記録や創造的支援を進めている。



「大堀相馬焼の歴史」末永 福男

すえなが・ふくお / ペンネーム末永千尋。浪江町文化財調査委員会・委員長。郷土史家。あぶくま生物同好会事務局長。相馬古陶の蒐収、大堀相馬焼の歴史研究を進め、「相馬古陶蒐収譜」を刊行。現在、第二巻を準備中。

◎クロストーク/小林めぐみ・末永福男・大堀相馬焼窯元・プロジェクト浪江

【懇親会】午後5時30分より

会場:アーマテラス 2F バイク形式のパーティー・懇親会 (参加費 2,000円・税込)



講演会・懇親会会場「アーマテラス」

3/20(金)・21(土・祝)・22(日)

【土と器、大堀相馬焼と暮らしの記憶 展】

会場/郡山市「ラボット」1F・2F 午前10時～午後6時30分

大堀相馬焼展示・販売

会場:ラボット 2F「ギャラリー並木」
大堀相馬焼と古相馬焼、陶芸作品、浪江町物産品の展示販売
「失われた街」模型復元プロジェクト…大堀地区復元模型展示
浪江の今を記録する 高木成幸写真展 他



古大堀相馬焼「ちひろコレクション」資料展示



記憶の街 大堀 復元模型



2/5開催した陶芸ワークショップの成果等の展示



震災・原発事故の記録



【特別上映作品】

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014
「黒塚」発信プロジェクト

映像作品「KUROZUKA 黒と朱」

主演:平山素子 監督:高明 企画・美術:渡邊晃一

謡曲、歌舞伎の演目「黒塚」「安達ヶ原」として知られる安達ヶ原の鬼婆伝説をもとに、舞踊家・平山素子主演によって描かれた映像作品。中央と地方との関係性、地方が犠牲にされる構図を象徴する悲惨な伝説に、東京電力福島第一原発事故が明らかにした現実社会の構図が重なる。

舞踊家・振付家の平山素子氏主演、監督は南相馬市出身の高明氏、美術を福島大学教授の美術家渡邊晃一氏が担当。観世寺の他、被災地・浪江町などでロケが行われた約10分の映像作品。「しもくの家」で上映します。

ふるさとの記憶をつなぐアーカイブ

会場:ラボット 1F「しもくの家」
大堀相馬焼の向こうにひろがる浪江町の暮らしと出会うために、ふるさとの記憶をさぐる展示と、お出で頂いた皆様から聞き取りワークショップなどを行います。

【特別上映】

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト2014 映像作品
「KUROZUKA 黒と朱」

【展示等】

浪江町の記憶にかかわる映像アーカイブ
大堀相馬焼窯元による走り駒の絵付け実演 他

大堀相馬焼の器でお茶もお出しします。
静かな会場でゆっくりとおくつろぎ下さい。



ラボット 1F「しもくの家」

